



## はじめに | Introduction

世界では、さまざまな国にたくさんの人々がくらしています。1巻・2巻では、それぞれの国には得意なものと足りないものがあり、それを国どうしでやりとりするのが「貿易」で、関税がどんなもので、どのような役割があるのかを学びました。

3巻では、「関税はどのように決めるの?」「なぜ関税を上げようとするの?」

という疑問に、イラストや表・グラフでわかりやすく答えていきます。



関税をめぐる動きは、日々、めまぐるしく変わっています。ときには対立することもあります。今起きている世界の「関税ニュース」を取り上げながら、関税の課題と未来について、いっしょに考えていきましょう。

※この本の情報は2026年1月末現在のものです。

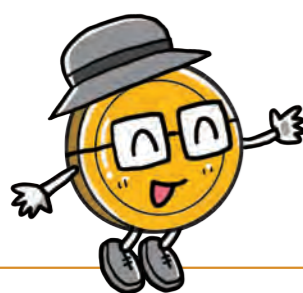
※関税率は品物・国・季節などでこまかく定められています。この本のイラストで説明している例は、わかりやすくするためのもので、実際の関税率とは異なることがあります。



## もくじ | Contents

- 関税って、なに? ……4
-  世界の関税ニュースを見よう! ……5
- 関税が50%に上がったたら、どうなるの? ……8
- なぜ、関税を上げようとするの? ……10
- 関税はどのように決めるの? ……12
- はじめての世界共通の貿易ルール、GATT ……14
- GATTがパワーアップしてWTOに! ……16
- エリアごとの関税ルール ……18
- 世界の経済圏 ……20
- 注目! 関税ニュース-トランプ関税- ……22
- 注目! 関税ニュース-日本- ……26
- ルールがあるのに、なぜ関税でもめるの? ……28
- まとめ ……30
-  バイバイ、かんぜいくん! ……31

## 登場人物 | Characters



### かんぜいくん

子どもたちに関税や貿易について教えてくれる、とても物知りな関税のアドバイザー。瞬間移動など、不思議な能力を使う。性格はまじめ。



### カンちゃん

小学4年生の元気で好奇心おうせいな男の子。野球とゲーム、バナナが好き。



### タリちゃん

小学4年生のやさしい女の子。ファッションとアニメが好き。果物とケーキに目がない。

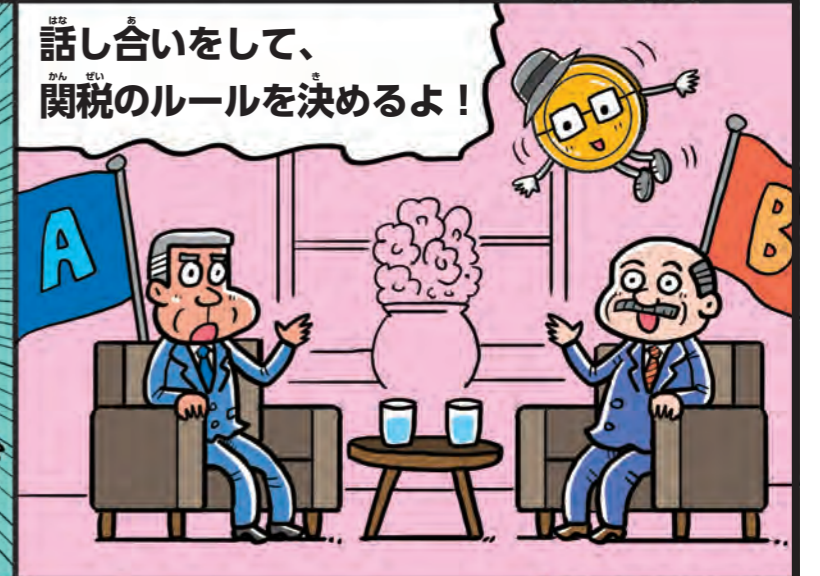
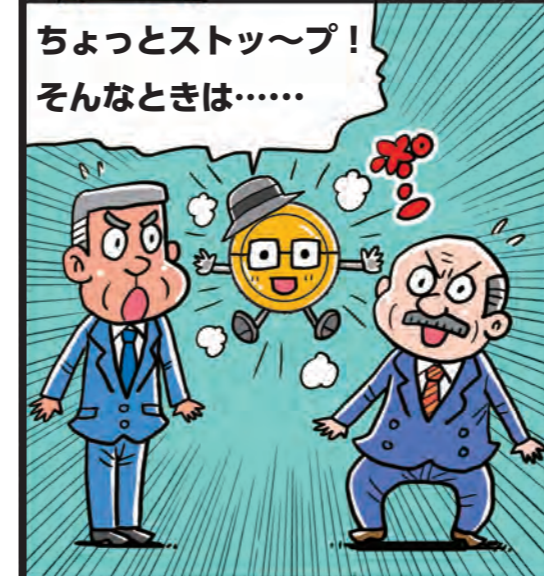
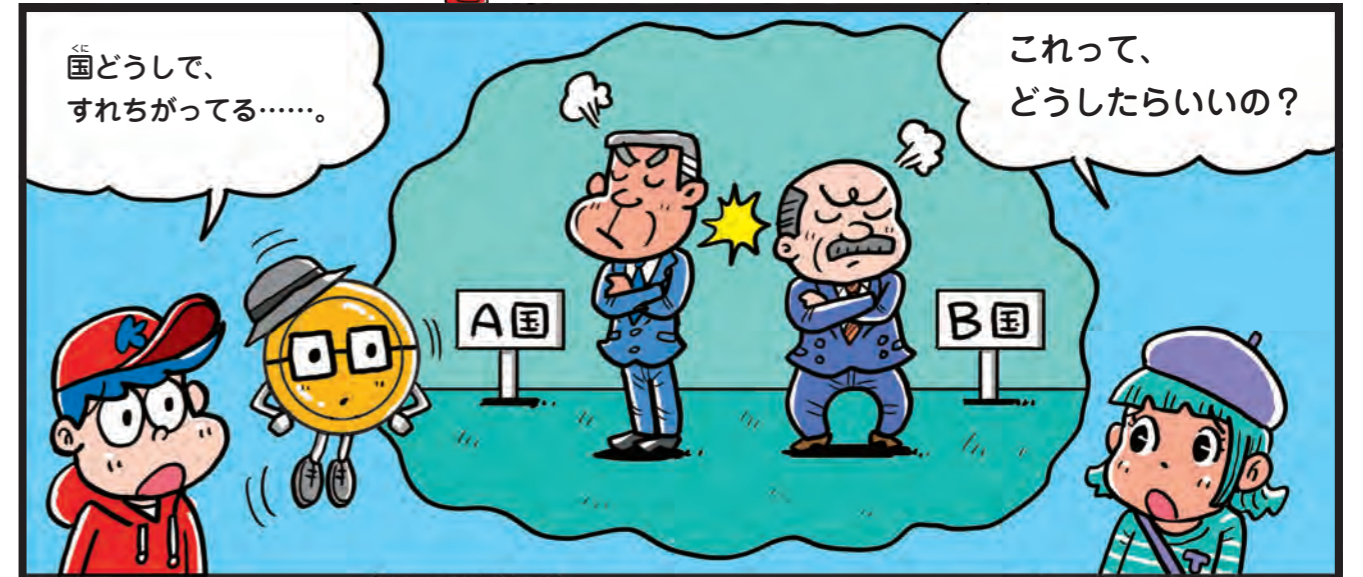
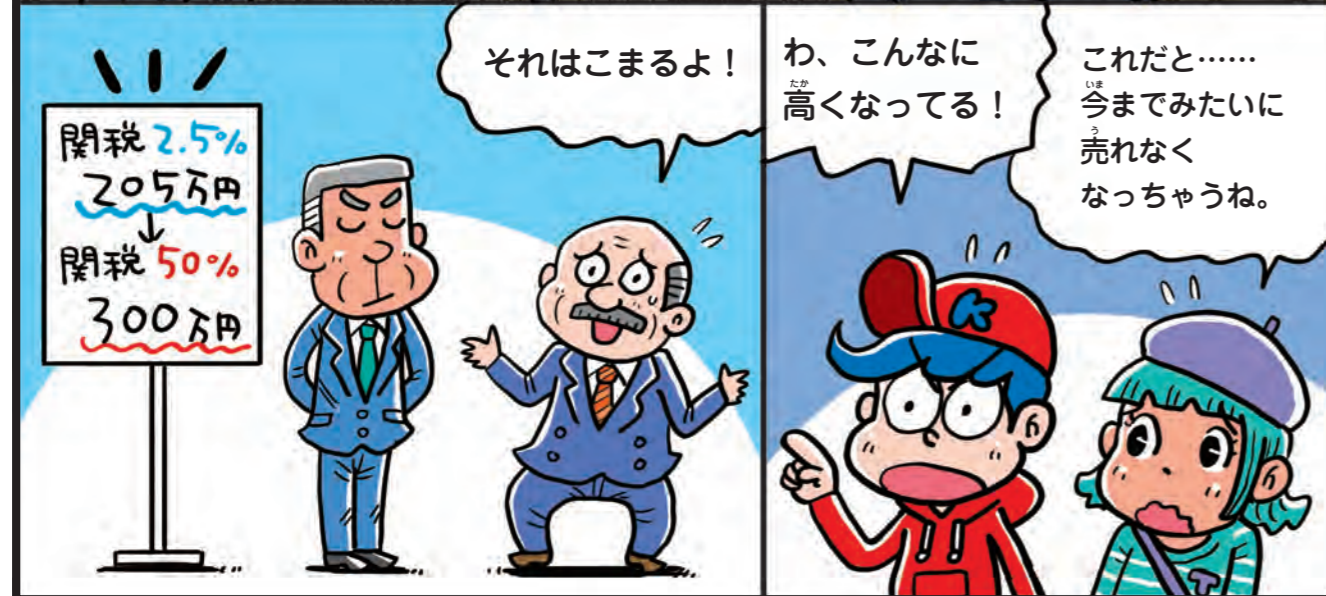
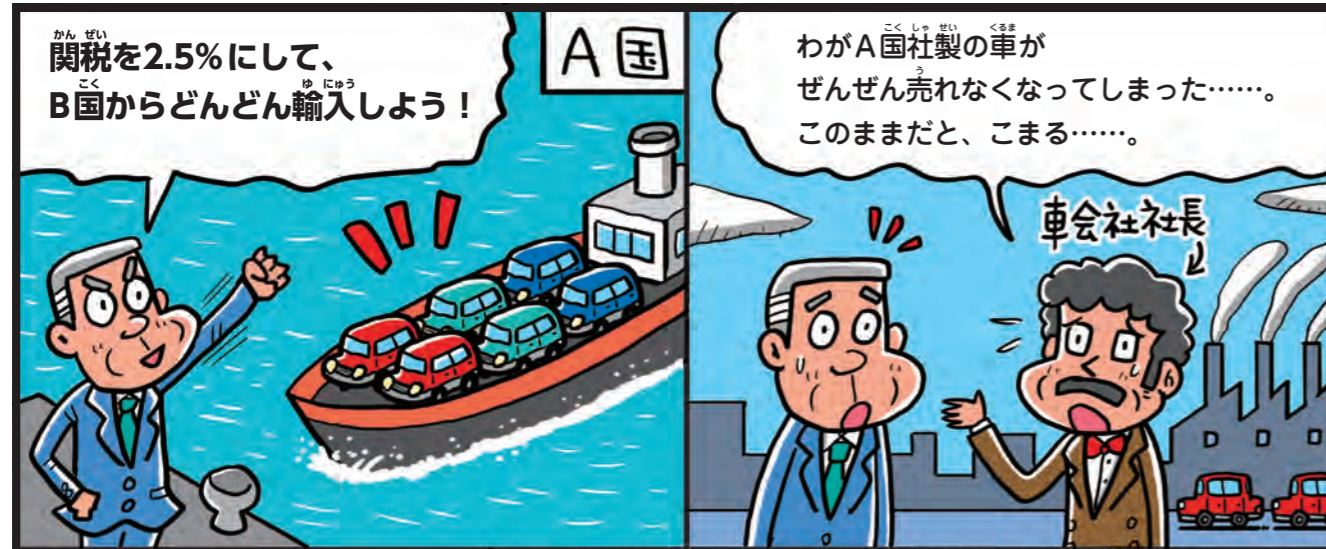


## これらの本やホームページを見ながら勉強したよ!

- 『データと地図で見る日本の産業⑥ 貿易・運輸』一般社団法人 日本貿易会監修(ポプラ社)
- 『楽しい調べ学習シリーズ よくわかる貿易』泉 美智子監修(PHP 研究所)
- 『改訂2版 絵でみる貿易のしくみ』片山立志著(日本能率協会マネジメントセンター)
- 『JFTC きっず★サイト』<https://www.jftc.or.jp/kids/>

## さらに深く知りたい人のために(大人向け)

- 『関税の知識 16版』大山綱明著(日本経済新聞社)
- 『世界関税史』朝倉弘教著(日本関税協会)
- 『農林水産省』<https://www.maff.go.jp/>
- 『経済産業省 資源エネルギー庁』<https://www.enecho.meti.go.jp>
- 『税関』<https://www.customs.go.jp>
- 『一般社団法人日本貿易会』<https://www.jftc.or.jp>
- 『JETRO 日本貿易振興機構』<https://www.jetro.go.jp/>



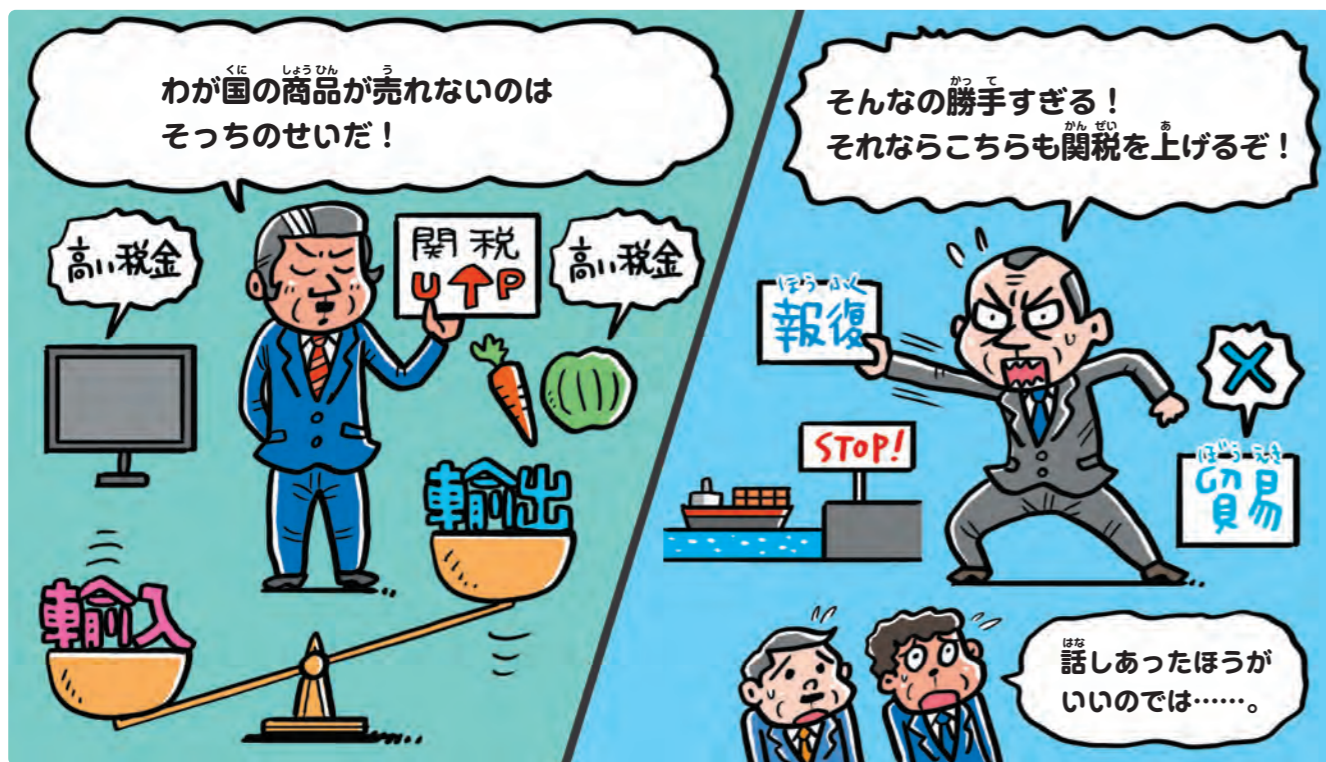
# なぜ、関税を上げようとするの？

貿易には自国の産業と仕事を守ろうとする「保護貿易」と、安くていい品物を自由に売り買いしようという「自由貿易」の考え方があります。関税を上げるのは、「保護貿易」の動きが強くなっているからです。

## 自国の産業と仕事を守るため

どの国も「自分の国の産業や働く人を守りたい」と考えています。たとえば、

ある国が長く貿易赤字(外国から輸入したものの合計金額が、輸出したものの合計金額より大きいこと)が続き、「自分の国の製品が売れないのは、外国の安い品物があるせいだ!」「自分の国ばかり



がお金を出して、相手を買わないのは不公平だ!」と考えます。そこで、「自分の国の会社や仕事を守るために、外国の品物にだけとても高い税金をかけよう」と、関税を上げようとするのです。

## 有利に交渉を進めるための武器に

関税を上げられた相手国は、輸出した商品の値段が上がって外国で売れなくなり、こまってしまいます。そこで「関税を下げれば、わが国の言うこと

を聞け」と別の要求を相手国につぎつけ、交渉を有利に進める武器にすることもできます。

ただし、相手の国が「それならこちらの関税も上げよう(報復関税)」としたり、輸出を制限したり、仕返しをされるキケンもあります。そうすると、貿易摩擦(貿易戦争)がはげしくなります。

近年では、ルールを守らない国に対しての罰(制裁関税)や貿易とは関係のない国と国のケンカの武器として、関税が使われることが増えています。

### COLUMN

## アメリカと中国の貿易摩擦

アメリカは中国からの輸入が多く、輸出が少ない「貿易赤字」が続いています。2018年に一方的にアメリカが関税を上げ、中国が対抗したことから、貿易摩擦がはげしくなっています。現在も話し合いを続けていますが、解決には至っていません。

2018年～ (第1次トランプ政権)	アメリカが中国に対して、計4回にわたる追加関税(25%、25%、10%、15%)を行う。中国もすぐに報復関税を行う
2020年 (第1次トランプ政権)	第1段階合意。一時休戦
2021年～ (バイデン政権)	アメリカが輸出規制や輸入規制を行う。2024年には中国製電気自動車に100%の関税をかけることを決定
2025年1月～ (第2次トランプ政権)	アメリカが中国に対して、追加関税をかけることを発表。一時は最大合計145%にもなった。中国も報復関税や輸出制限を行う
2025年5月～ (第2次トランプ政権)	相互関税の引き下げに合意。一時休戦